

西栗倉村のバイオマス産業都市構想 Biomass industry city design of Nishiawakura Village

○白簾佳三・上山隆浩
Keizou Shirahata and Takahiro Ueyama

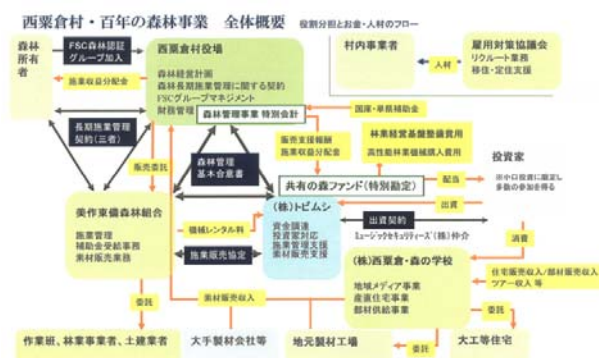
1 村の概要

西栗倉村は、昭和および平成の合併には参加せず、明治 22 年の町村制の施行以降単独自治体として自主・自立を選択し、村の面積の大半を占める森林の活用を軸とした地域活性化による生き残りを模索してきた。めざすべき村の将来像は、森林資源活用による地域循環経済と都市農村交流等をベースとした「百年の森林構想」としてまとめられ、木材等に関する起業、I ターン者受入による自然や森林・農産物の特産品や工芸品の開発、再生可能エネルギー導入等を通じた低炭素社会の構築などを地域活性化、過疎化対策として推進している。

村の面積の約 95%が森林であり、その内 85%がスギ・ヒノキの人工林だが、面積の小さい民有林では、間伐等の森林管理作業等を森林所有者個人が単独で行わなければならない、森林からの売上減少及び所有者の高齢化により適正な管理が困難な状況となっている。

平成 20 年に林業関係団体が協働で林業の活性化を図る『西栗倉村百年の森林構想』を立ち上げ、この構想を実現させるために林業の再生を村の重点施策とする「百年の森林づくり事業」を開始している。森林所有者・村・森林組合の 3 者による森林長期施業管理委託協定を締結し、村が主導しながら森林所有者に負担を求めることなく、間伐や作業道の整備を実施している。

また、大部分が未利用のまま放置されている間伐材に各業種の専門分野で高付加価値をつけ 6 次産業化させるなど、森林・林業の再生と地域活性化に取り組んでいる。



2 バイオマス産業都市構想の目指すもの

西栗倉村は、『百年の森林構想』に限らず、再生エネルギー導入等を通じた低炭素社会の構築を推進しており、平成 26 年 5 月にはバイオマス産業都市に選定された。

西栗倉村が目指す「バイオマス産業都市」とは、「百年の森林事業」に基づく森林整備（川上）と流通管理（川下）の一元管理により計画的に伐採され、安定的に収集・搬出される間伐材や未利用材などの森林バイオマスの活用を基軸としながら、森林管理がもたらす豊富な水資源を活用した小水力発電や太陽光発電など西栗倉村の地域資源による再生可能エ

西栗倉村産業観光課 Industry and Tourism Department, Nishiawakura Village

キーワード：農村振興、エネルギー循環、中山間地域、物質循環

